

簡が出土している（本誌第五・一〇・一一・一一号）。

## 8 木簡の积文・内容

### 一 第一三六次調査

(1) □ □ □

091

長さ五七〔幅〕一〇〔寸〕の削屑であるが、积読不能。他の四点はもと  
に小型で、わずかな墨痕が確認できるにすぎない。

### 二 第一三八一二次調査

(1) □ □ □  
〔色〕□

(8)×(28)×3 081

横材で、四周欠損。积読できる文字は、中央下の一字のみ。一見  
「乙」「乙」にみえるが、中に点がある」と、文字の頭に「ク」の  
くずしを確認できる」となどから「色」と判断した。全体の内容に  
ついては不明。

### 9 関係文献

奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要』100-K (1100六年)  
同『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』110 (1100六年)

(市 大樹・竹本 晃)

東京大学出版会、1100六年五月刊行

## 『評制下荷札木簡集成』

（奈良文化財研究所史料第七六冊）の刊行

1100年ほどの間に飛鳥池遺跡、石神遺跡、飛鳥京跡苑池  
遺構などから陸続と発見された七世紀の木簡は、律令制形成期  
の豊かな歴史像を提供してくれている。中でも荷札木簡は、地  
方支配や収取体制を端的に示す史料として重要である。

本書は、こうした観点から、七世紀の評制下の荷札と判断さ  
れる三三九点の木簡を国別に集成し、鮮明な写真を提供し、か  
つ詳細な解説を施したものである。奈良文化財研究所だけな  
く、奈良県教育委員会（奈良県立橿原考古学研究所）をはじめ  
各地の調査機関が担当した調査で出土した木簡も収録しており、  
木簡調査機関の幅広い連携によって初めて可能になった出版で  
ある。収録にあたっては、各機関の責任において积文の再検討  
を行ない、最新の成果が認められている。また、七世紀の荷札  
を総合的に論じた総説を付す。市販は左記の通り。

A4判、カラー図版二葉、図版六四頁、本文一一六頁  
定価 五一五〇円（税込み）